

## 平成19年度 菅生こども文化センターの管理運営に対する評価について

### 1 指定管理者

|           |   |
|-----------|---|
| (1) 指定管理者 | 菅生こども文化センター運営協議会                                  |
| (2) 指定期間  | 平成18年4月1日～平成23年3月31日                              |
| (3) 業務の範囲 | 菅生こども文化センターの管理運営に関すること<br>稗原小学校わくわくプラザの管理運営に関すること |

### 2 管理運営（事業執行）に対する評価

| 評価項目                     | 平成19年度管理運営の状況   | 評価及び指導  |
|--------------------------|---|---|
| <b>(1) 管理業務の実施状況</b>     |   |   |
| 施設の運営に関する職員体制に関すること      | 職員は「児童厚生員」の有資格者を確保しており、日々「自己研鑽」にまさる研修はないと、共に切磋琢磨している。毎週火曜日午前中に職員会議を実施し、欠かさず開催することを目標値とした。また、職員会議では事業にとどまらず指導する個々への分析と指導方針を確認しあった。サポーターも正規職員と同じ感覚で子ども達に指導ができることを目指し、全員とサポーター全員で、毎月1回、「スタッフミーティング」を開催した。  | 毎週職員全員参加の職員会議や職員・サポーター全員参加のスタッフミーティングを月1回実施しスタッフの連携を強化していた。また、研修や日ごりの活動を通し職員の資質向上を図っていたことは評価できる。  |
| 施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること | 毎月1回、利用者団体を中心とした「企画会議」を開催した。さらに、年3回法人の理事会に相当する「運営協議会」を開催した。その中で、住民の顕在化・潜在化するニーズの把握するとともに、児童の様子を話すことによって子どもたちの施設に対するニーズの把握に努めた。また、わくわくプラザ事業では、子どもミーティングを従前から開催しており、子どもたちのニーズの把握に努めているところである。さらにそれをスタッフミーティングで整理し、子どもたちのニーズ実現に向けて討議した。子どもたちのニーズ等の把握に関して関連機関との連携することを目標とし、今年度は学校教育機関との連携をより一層深めることとした。 | 運営協議会が指定管理者であるメリットを生かし、地域に根ざした活動をもとに地域ニーズ把握に努めていた。また、年次目標として学校教育機関との連携強化を目指すなど具体的目標を掲げニーズ把握の強化に努めていたことは評価できる。今後は事業計画にある提案箱の設置についても検討すること。 |

|                       |  |   |
|-----------------------|--|---|
| <p>サービスの提供に関すること</p>  | <p>何よりも気持ちよく利用してもらうために、①しみ出る挨拶と声かけ、②清掃活動の徹底を図っている。また、市民活動の活性化に向けて、こども文化センターの持つ機材のすべての提供を行っている。鉄板や大鍋の貸し出しの他、特に印刷機器の提供は好評で、従前宮前区役所にある区民支援コーナーまで印刷に出向いていたものを身近な場所で済ますことができると口コミでも利用者が広がっている。さらに、宮前図書館からの団体貸出を18年度の後半から200冊受けており、こども文化センターの図書と合わせて貸し出しを実施しており、幼児をもつ母親たちが近くで本が借りることができると喜ばれている。</p>                           | <p>日ごろの施設の清掃や利用者への挨拶等の声かけを徹底していた。こども文化センターについては、利用者ニーズをもとに、備品等の貸し出し、印刷機の提供、また図書の貸し出しのため図書館からの図書の借受を実施等サービス提供を充実させたことは評価できる。</p>         |
| <p>事業の実施に関すること</p>    | <p>18年度、小学生に対しては充実した事業を提供することが出来たので、19年度は幼児に重点をおいた事業展開の充実を目標とした。従前、幼児クラブを実施していたが、それに属さず、フラッと訪れ、遊んだり、本を借りて帰る母子が散見されるようになったことから、月1回テーマを決めて実施する母と子のための遊びの広場「がおがおらんど」を10月から開催した。また、それに伴い乳幼児の利用者10%増を目標値とした。また、小学生に対しては、子どもの声を拾い、できるだけ実現できるように努めた。さらに、おもちゃのお医者さんをしている出口氏が得意分野の電気実験装置を5種類作り、子どもたちに電気の不思議を伝える等事業に厚みを持たせている。</p> | <p>幼児利用の充実を目標に掲げ、既に実施している幼児クラブに加え、利用者ニーズに応え幼児向け事業を毎月1回開催したことは評価できる。クラブ活動については、継続して実施し内容の充実を図っていた。また、ボランティアを活用した行事なども実施していたことは評価できる。</p> |
| <p>個人情報の取扱いに関すること</p> | <p>「個人情報に関する取扱いについて」を受付に掲示し、市民に菅生こども文化センターの個人情報に関する取扱いについて市民に周知している。また、必要以上の個人情報は入手しないよう常に心がけている。個人情報の保管については、パソコンはパスワードを設定し、限定された者しか入力・閲覧できないようにしており、紙の書類については鍵のかかる場所に保管を徹底している。</p>  | <p>個人情報の取扱いについては、概ね問題なく処理されている。</p>   |
| <p>施設の安全管理に関すること</p>  | <p>施設内は、毎日清掃し、その際全施設の安全を点検することとしている。掲示物の画鋸の数・状況点検、破損箇所の点検、危険物の放置はないか、遊具の異常はないかを職員が必ず始業前点検を行うこととしている。屋外は雨天時を除き、遊具の点検を毎日目視し、利用前には問題ないか点検して利用に供している。ウォータークラーについては衛生上、規定に基づいて毎日の水の放出、月1回タンク内の清掃を実施している。</p>  | <p>毎日の清掃や点検により施設の安全性は概ね良好の保たれている。</p>   |

| (2) 利用状況   |  |  |
|------------|--|--|
| ①こども文化センター | 延べ利用者数 19,876人<br>延べ団体利用数 6,635団体<br>(主な行事等)<br>おもちゃのお医者さん<br>ひこばえまつり<br><br>(特色のある行事)<br>がおがおらんど        | 概ね事業計画どおりの執行状況となった。<br>利用者増を目指し、今年度は乳幼児利用者前年度比10%増と具体的な目標を定め、結果18.7%増となり目標を達成したことは評価できる。 |
| ②わくわくプラザ   | 1 稗原小学校わくわくプラザ<br>登録者数 257人<br>延べ利用者数 11,340人<br>(主な行事等)<br>工作週間<br>わくわくまつり<br><br>(特色のある行事)<br>むかしあそびの日 | こども文化センターと合同で主に季節ごとの行事を実施していた。またイベント開催について、地域のボランティアの協力のもと開催していたことは評価できる。                |

| 評価項目     | 平成19年度管理運営の状況  | 評価及び指導  |
|----------|--|---|
| (3) 収支状況 |  |   |
| ① 収支状況   | (単位：円)<br>収入 指定管理料 25,518,602<br><br>支出 人件費 21,992,621<br>管理費 3,134,148<br>事務経費 403,484<br>その他経費 0<br>合計 25,530,253<br><br>差引 ▲ 11,651 | 経費の支出については、指定管理料以上の支出となったが、ほぼ指定管理料と同額の執行となった。 |

### 3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

菅生こども文化センター運営協議会が指定管理者となっているメリットを生かし、地域との連携、ボランティアの活用、地域ニーズの把握等、地域に根ざした管理運営を行っていたことは評価できる。事業の実施に際し、数値目標を定め具体的な目標に向かって運営を行い目標を達成したことは評価できる。また、運営協議会として施設の特色を十分理解している強みを生かし、祭りやキャンプなど長年続いている行事を継続して実施したことは評価できる。

### 4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き運営協議会が指定管理者であるメリットを生かし、特色ある行事、地域ニーズの把握、ボランティアの活用などに努めること。また、事業実施について、具体的な数値目標を掲げ目標達成に向かい管理運営に努めること。